

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本温泉気候物理医学会
理事長 宮下 和久

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
 - a. 特に学術的に重要と考えられるもの
生命現象に影響を及ぼす自然環境要因である温泉・気候・物理的刺激に関して、医学的、学術的研究ならびに医学的応用を推進すること。
 - b. 当該領域における国際的な役割
我が国は、世界でも有数の火山国であり、多くの温泉に恵まれ、春夏秋冬の四季による変化があり、気候も多彩である。日本の温泉の泉質、風土、風習等に世界的な注目が集まる中で、本学会として、日本の温泉、気候等の特徴や魅力、医学的エビデンスを世界に発信していきたい。それにより、海外からのインバウンドや海外からのヘルスツーリズムに繋げていきたいと考えている。
本学会は国際温泉気候医学会（ISMH：International Society of Medical Hydrology and Climatology）に加盟しており、毎年1回行われる総会にて会員が発表している。2014年度に京都市にて39th ISMH総会を第79回本学会総会と同時開催した際には、海外より、25ヶ国計70名の参加があり、国際交流を深めることができた。
 - c. 活動からもたらされる社会的な意義
本学会が認定している「温泉療法医」「温泉療法専門医」を通じて、温泉の効能、温泉の適応症・禁忌症、安心なお風呂の入り方等の啓蒙活動をすることにより、健康増進、疾病予防、入浴事故の減少などが期待できる。
 - d. 学会運営上留意している点
広く関連領域の会員を募る一方で、会員構成の医師8割を保つこと。
- II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

2008年「入浴関連事故の予防と原因解明の必要性」を厚生労働省、環境省、文化省、警察庁に発し、これをきっかけに2012年～2013年度指定型厚生労働省科学研究班が設置

され、法医学会と救急医学会と共同で初めて広く入浴関連事故の実施調査を行い、それぞれの学会の特性を生かした実態把握が行われた。それをもとに、入浴関連事故の予防方法もまとめ、パンフレットを作成して、広報活動を行った。